川平ひとし先生を悼む

ハルオ・シラネ（コロンビア大学教授）

川平ひとし先生は、国文学者としてとても珍しい先生で、中世和歌研究の第一人者としてたいへん優れたご研究をなさりながら、英語圏の和歌研究もよく読んでおられました。それも一つのきっかけになって、一九九七年四月から一年間、コロンビア大学で客員教授として、日本文学の大学院生たちに中世文学を教えていただきました。中世の和歌、特に定家と新古今集について、授業をしていただきました。

棚木先生も同じ年に万葉集を教えていただきました。

川平先生は、人間としてとても心がひろく温かで、たいへん親身になって大学院生たちを指導してくださいました。当時川平先生にご指導をいただいた大学院生たちは、今、日本やアメリカの各地の大学で教職につき、みなそれぞれ若い研究者として活躍しています。Jamie Newhardはアリゾナ州立大学、衣笠正晃は法政大学、Peter Flueckigerはポモナ大学、David Lurieはコロンビア大学で、それぞれ教育と研究に励んでいます。

川平先生にご指導いただいたこの四人から、心からのお悔やみの言葉をあずかってきました。ここでは代表としてDavid Lurieの言葉を引用させていただきます。

川平ひとし先生は、私の知っている研究者のなかで、最も心の広い、温かな方でした。先生は、私が先生の大

学の直接の学生ではなかったにも関わらず、五年間にわたり、ニューヨークそして東京で、御指導くださいました。

私の書誌学や変体仮名の解読に関する知識は、すべて先生がお教えくださったものです。私が日本におりました時は、先生の乗り換え駅ということで、池袋のレストランや喫茶店で、よくお目にかかりました。そのため以前はなじみのなかった池袋という地名が、今は、とても親しいものに感じられます。先生は、調査で、都内の文庫や資料館へいらっしゃるときにも、おりおり、私を連れて行ってくださいました。また、私が大学院留学時代から大切にしている本の多くは、先生が下さったものです。

どのような言葉をもってしてもご家族をお慰めできるとは思いませんが、せめて、私が先生の温かさ、辛抱強さ、寛大さを忘れることは決してないとお伝えいたしたく思います。先生にお教えいただいたこと、そして先生と過ごした大切な時間、先生のもとで勉強させていただき、励ましをいただいた思い出を、これからも大切にしていきます。私にとっては、川平先生は、研究者としてはもちろん、人間として生きていくうえでの師と思っております。

最後に、長年、川平先生と親しくしていましたLewis Cook先生の言葉をお伝えします。

この二十年間、古今伝授の研究をつづけてきましたが、一番頼りになったのは、川平先生でした。いつでも電話ができて、どんな質問にもすぐ答えて下さいました。先生が亡くなられて、ほんとうに淋しいです。

川平先生のご冥福を心から祈ります。

二〇〇六年五月十日